

代表質問

自由民主党

選挙区 岩美郡
広谷 直樹 議員



今後の政治姿勢について

問 平井知事は平成27年4月に3期目の任期をスタート、10月に「鳥取県元気づくり総合戦略」を策定し、鳥取県ならではの「強み」を生かした地方創生の実現に取り組まれている。この「総合戦略」の今年7月の改訂版では10項目で目標値を上方修正するなど成果は着実に上がってきている。3期目の任期も残すところ1年半、知事の今後の県政運営に向けての問題意識・意気込みを伺う。

答 一定程度成果の上がったこともあれば片方では課題もある。例えば昨年の中部地震や先般の台風18号被害などを受けて災害に強い鳥取県づくりが必要だ。また障がいのある方やお年寄りのケア、子育て支援などの安心づくりも重要。これらに一つひとつていねいに対応していくことで残りの任期を全うしたい。

高速交通網の整備促進

問 高速道路ネットワークは企業進出促進や広域観光ルート形成の「地方創生の道」であり、緊急搬送や医療連携の「命の道」だ。しかし高速道路は広域にわたってつながってこそ本来の機能を発揮する。山陰近畿自動車道の全線開通、山陰近畿自動車道と鳥取道との連結、鳥取道と米子道の4車線化などの重要課題について知事の所見を伺う。

答 山陰近畿自動車道全体では3割弱の整備率だが、今後5年、10年でつながって行く、そういう新しい時代を呼び込んでいく。未接続のミッシングリンク関係では予算概算要求では27%増の伸びで政府に対して強力に運動を展開している。米子道・鳥取道の4車線化も同様だが、地元と一緒に今秋東京で要望活動する必要がある。

観光振興について

問 「鳥取県元気づくり総合戦略」に掲げられている観光客誘致の数値目標の達成に向けて、どのよ

うな戦略を展開するのか伺う。また、山陰海岸ジオパークが平成30年に2回目の世界ジオパーク再認定を受けることになっているが、前回の認定時に今後の課題として指摘されていた①ガイドの外国語によるコミュニケーション能力の向上②新しい拡大エリアでの解説パネルや施設の設置とガイド養成、の2点について進捗状況を伺う。

答 「蟹取県」「星取県」、また広谷議員が熱心に取り組まれてきた「瑞風」、「鳥取の鉄道の旅」などは取組中、また自然や環境を生かした旅など研究に掛かっている。山陰海岸ジオパークの再認定に向けて、外国語によるコミュニケーションではスマホなどで利用できるアプリを作り、現地解説を受けられるようにした。大変好評だと聞いている。新拡大エリアでは49か所に案内板を設置し、拡大エリアでのガイド養成も進んでいる。

農業振興について

問 水田農業は、来年度の作付けから50年継続されてきた生産調整と10a当たり7,500円の直接支払い交付金が廃止される。完全な自由競争になるとは言えないが、需給のミスマッチが加速して米価の下落が一層進むことが懸念される。県産米の販売促進の現状と今後の見通しについて知事の所見を伺う。

答 県は従来産地名表示を進め、5年前5,000tであったが今は8,000tになった。JAいなばは東洋ライスと金芽米の協定を、JA西部は東京三越内でGABA米の試験販売など販売促進の動きあり。県としても予算面を含めて活動を支援していく。

教育行政について

問 平成28年3月、県教育委員会は「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」を定め、中学校卒業生数の減少への対応策として、県外から目標を持った生徒を受け入れることとし、平成28年度は4名、本年度は10名が入学、来年度は8校36名を募集とのこと。今後長期的に見て、県外からの生徒受け入れはどうあるべきか教育長の所見を伺う。

答 (教育長)各高校が特色ある教育活動を行い、県外生徒を受け入れることにより学級活性化、ひいては地域活性化へつなげるため、今後も実績を積み重ねつつ状況を見ながら進めていきたい。

代表質問

民進党

選挙区 鳥取市
坂野 経三郎 議員



国の地方創生への本気度

問 所得が増え、人口が増えるという実感を、県民の皆さんが感じて初めて地方創生は成功だ。安倍内閣の本気度が全く足りないと感じるがどうか。

答 原点を大切にするように、強く要望していく。

財政調整型基金300億堅持

問 財調基金は平成9年には、1千億円を超えていた。平井知事は平成19年に就任し、残っていた300億円を堅持する公約を掲げた。しかし、平成29年当初で割り込み270億円となった。私は堅持方針を応援する。市町村資金貸付基金は約131億円あり、現在貸し付けているのは24億円で、106億円現金がある。この基金については15年間議論されていなかったが、見直す時期が来たのではないか。

答 市町村側の御理解などを得て、精査研究する。

文化芸術振興策について

問 人材育成、環境整備、観光交流、移住、伝統保存、情報発信など、多岐にわたる取組みを進めるために、鳥取県の文化芸術振興に関するアクションプランを策定してはどうか。

答 行動指針の策定を、知事部局で目指していく。

公立鳥取環境大学の課題は

問 卒業生の進路は、県外出身の約8割は県外で就職。県内出身の約7割は県内就職。中国地方で一番低い県内出身学生の割合は、改善すべきだ。

答 大学側とよく協議をしていく。

減少する消防団員の確保策

問 鳥取青年会議所の一員として、宿泊型避難所体験イベントに参加した。そこで、炊き出しをしてくれた自衛隊の存在は地域防災で頼りになると感じた。隊友会、予備自衛官へ広報してはどうか。

答 防衛省、自衛隊と調整させていただく。

学校教育環境の改善を

問 ①エアコン設置状況は、全国平均41.7%で鳥取県31.3%。鳥取市19.8%境港市91.7%伯耆町97.1%であり、県内小中学校で格差があるが分析は②トイレの洋式化率は、県内高校の平均33.6%、鳥取西高校92.7%で鳥取商業高校6.3%。トイレの洋式化を進め、格差是正に取り組むべき。

答 (教育長)①市町村が進めるエアコン整備事業に対し、しっかりと財政支援ができるよう国に要望する②鳥取西高校は耐震改修の中で整備した。鳥取商業高校など極端に低いところは緊急対策する。

未来人材育成奨学金支援制度

問 大学院卒、大卒、短大卒だけでなく、専門学校で資格を取った保育士なども対象に含めるべきだ。

答 可能だと思う。体制が整えば改めて提案する。

えんトリーを、東中西部へ

問 とっとり出会いサポートセンターは大きな成果を出している。中部への拠点整備の可能性を問う。

答 関係者とよく協議をしていきたい。

農家所得の向上策について

問 「農業をいつやめようか。少なくとも、息子には農業はやらせない」という農家の声を聞いた。儲かる農業も大切であり、持続可能な農業も必要だ。若者に魅力的な農業への変革が必要ではないか。

答 活力増進プランの改定を含めて取りまとめる。

ドクターヘリ導入に向けて

問 ドクターヘリが、今年度末いよいよ導入される。兵庫県の豊岡病院ではフライトドクターは15名。鳥大病院は2名。如何にして確保するか問う。

答 鳥取大学が人材確保をできるよう協力する。

不登校対策・労働環境改善

問 ①公立中学校の不登校出現率は西部が低い。全県同じように対策を進めるのではなく、西部の取り組みを東部、中部へと広げていくべきでは②教員の勤務時間のICT管理体制の構築をするべきだ。

答 (教育長)①もう少し深掘りし検討していきたい②県のほうでも音頭をとりながら進めていく。